

臨床研究に関する公開情報

平成 29 年 06 月 23 日

疫学研究とは、病気にかかることの頻度や病気の多さを調べて、その原因を明らかにする研究です。私たちは過去のカルテより得られた情報を利用して、現在まで行われた病気の診断・治療の評価を行い、より良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、下記の疫学研究を行っています。

下記の疫学研究は、兵庫県立尼崎総合医療センター倫理委員会の承認を得た後、研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんに新たにご負担をおかけすることはありません。

また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され、個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

もし、下記の疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記連絡先にご連絡くだされば、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また下記研究に関して、ご不明な点がございましたら、いつでも下記連絡先にお問い合わせください。

<概要>

研究課題名：「ロータプレーターを用いた経皮的冠動脈形成術において、バーサイズによる治療の安全性と有用性の比較検討」

研究期間：2013年01月から2018年12月までを予定しています。

対象：2013年01月から2017年06月に兵庫県立尼崎総合医療センターにてロータプレーターを用いた経皮的冠動脈形成術を施行した症例。

研究目的：高度石灰化病変に対する従来のバルーン拡張術やステント留置術は、健常血管の過拡張により冠穿孔の危険があり、また拡張不十分で手術が終了した場合には急性冠閉塞や慢性期に再狭窄を生じる頻度が高くなります。ロータプレーターによる有効な石削により、過拡張による冠穿孔の危険を減らすだけでなく、十分な拡張が得られることで急性冠閉塞や慢性期の再狭窄が減少すると考えられます。一方、ロータプレーターの手技には冠穿孔や末梢塞栓などを合併する危険性があります。今回の研究目的は、バーサイズにより治療の安全性と有用性の比較検討することです。

方法：診療記録より臨床情報を収集します。収集する臨床情報には、年齢、性別、体重、基礎疾患、血液検査結果、内服薬、病変情報、治療手技情報、ステント情報などがあります。研究成果は学会、および論文にて公表します。

個人情報：臨床情報は匿名化され、個人が特定できないようにして、必要な臨床データのみを収集して解析を行います。そのため、本研究に協力していただく患者さんに不利益が生じることはないと考えています。しかし、そうであっても臨床情報を本研究のために使用されたくない

方は、ご連絡いただければ解析対象から除外します。

問い合わせ先：

研究責任者： 西本 裕二

兵庫県立尼崎総合医療センター 循環器内科

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町 2-17-77

TEL： 06-6480-7000 FAX： 06-6480-7001

E-mail： yuji.nishimoto@gmail.com